

シリーズ「ウイルス性肝炎」

（その2）「一生に一度は、肝炎ウイルス検査を受けましょう」

肝炎ウイルスに感染していても、自覚症状がない「キャリア」という状態にある人が多くいます。この状態にあると、職場の健診の血液検査での肝機能検査（AST、ALT、GOT、GPT）の値に異常がなくても、肝炎ウイルス陽性ということは大いにあり得ます。

すべての人に、一生に一度は、肝炎ウイルスに感染しているかどうかの検査を受けることをお勧めします。

その中でも特に、以下に当てはまる場合は、積極的に検査を受けましょう。

- 肝炎ウイルス検査を受けたことがあるかどうか分からない
- 肝炎ウイルス検査を受けたことはあるが結果を知らない
- 家族にB型肝炎・C型肝炎ウイルスに感染している人がいる
※母子感染、性的接触、歯ブラシ・カミソリの共用で感染し得るため。
- 家族に肝がんの人がいる
- 職場の健診の血液検査での肝機能検査（AST、ALT、GOT、GPT）の値に異常あり
- 1985年（昭和60年）以前に生まれた
※翌年に母子感染予防対策が開始したため。
- 輸血や大きな手術をしたことがある
- 刺青・タトゥー、覚醒剤の回し打ち、
医療機関以外でピアス穴をあけたことがある
- 医療従事者

